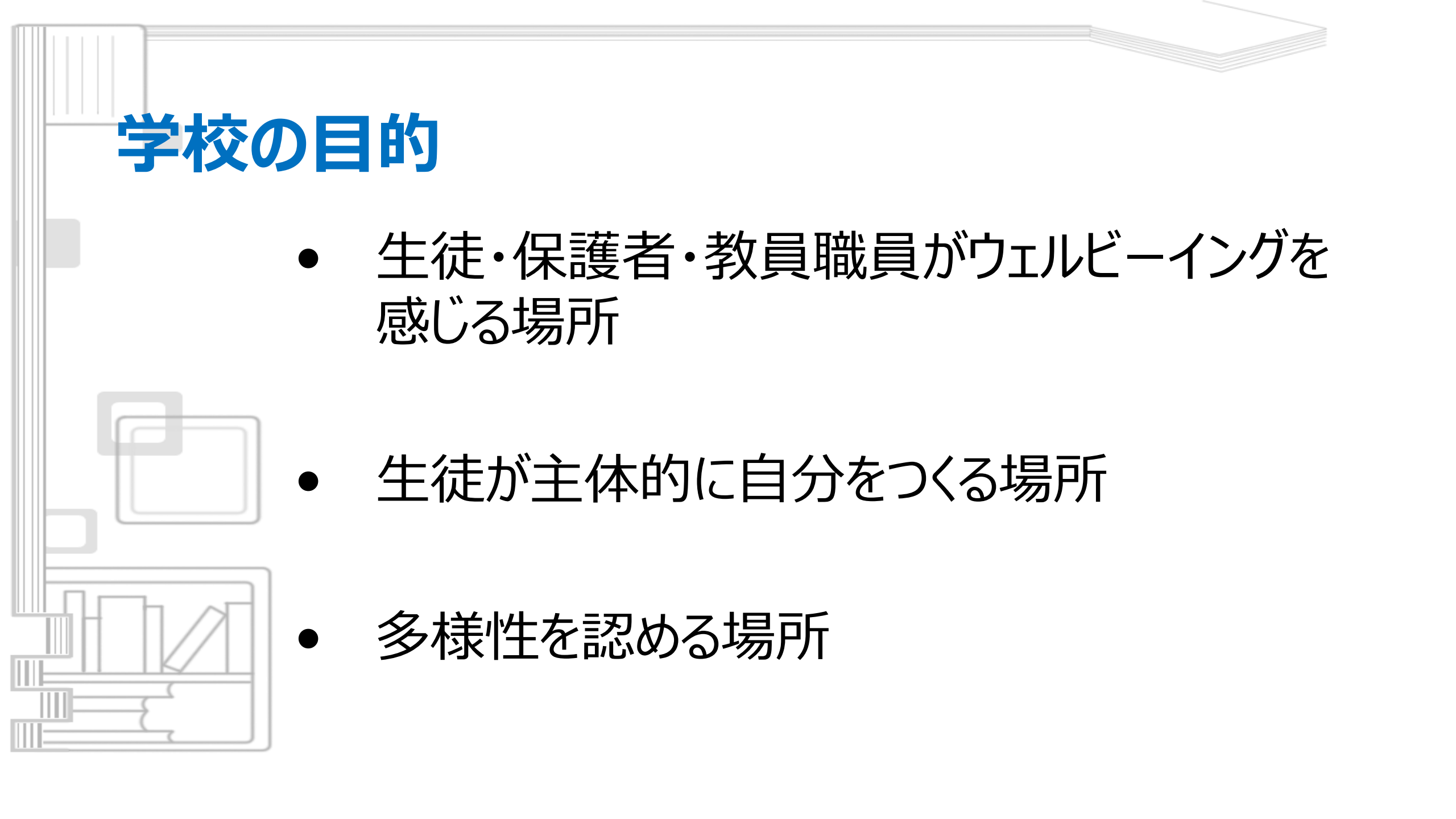




2025事業計画

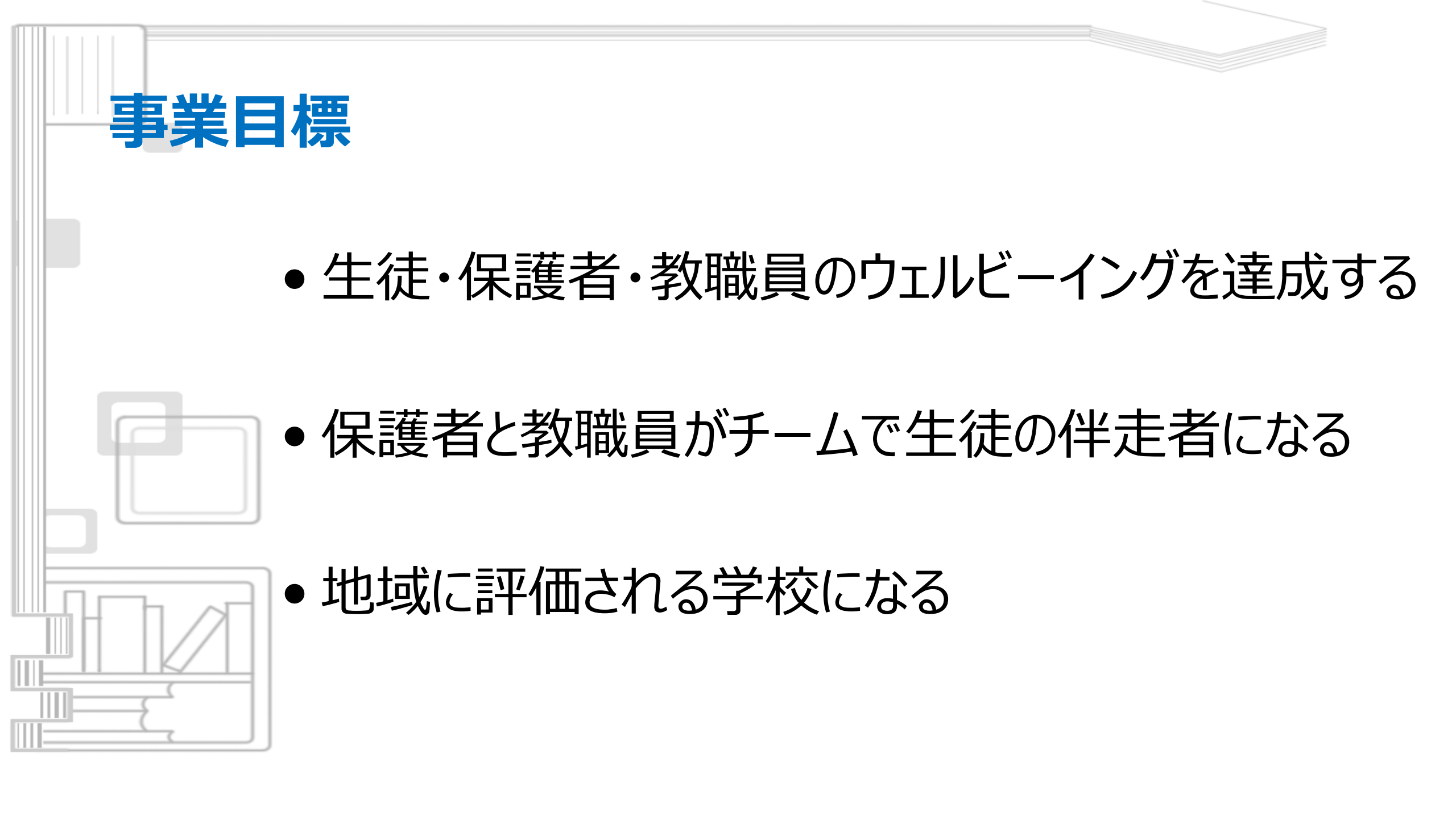
鹿児島情報高等学校





学校の目的

- 生徒・保護者・教員職員がウェルビーイングを感じる場所
- 生徒が主体的に自分をつくる場所
- 多様性を認める場所



事業目標

- 生徒・保護者・教職員のウェルビーイングを達成する
- 保護者と教職員がチームで生徒の伴走者になる
- 地域に評価される学校になる

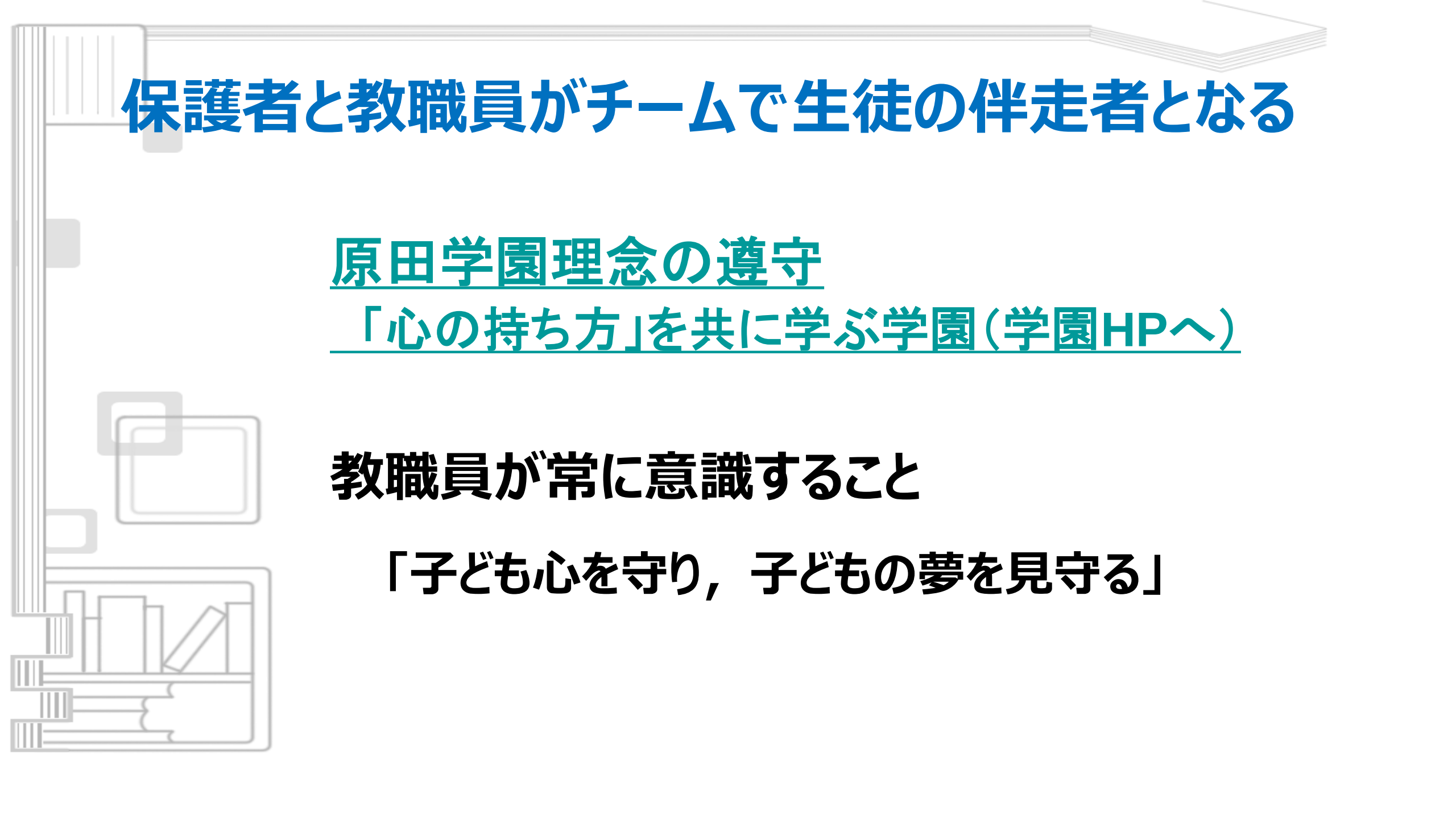
生徒・保護者・教職員のウェルビーイングを達成する

教師のウェルビーイング、 学校・地域・社会のウェルビーイング

日本社会に根差した
ウェルビーイングの向上

子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められます。





保護者と教職員がチームで生徒の伴走者となる

原田学園理念の遵守

「心の持ち方」を共に学ぶ学園（学園HPへ）

教職員が常に意識すること

「子ども心を守り，子どもの夢を見守る」

保護者と教職員がチームで生徒の伴走者となる

本学と末学の共通認識

- 「**本学**」 特性を養う学問「人間学」 ex**建学の精神**
- 「**末学**」 知識、技能を養う学問 ex進学実績、部活実績

「その**本**乱れて**末**治まる者はあらず(本末転倒)」

～古典「四書」の一つ。「大学」からの引用～

人間として正しい道を求める「**本学**」を常に**先とし**、生きるうえで必要とする知識・技能といった手段の修練を「**末学**」として**後に置く**。

その順番を間違えてはいけない。

保護者と教職員がチームで生徒の伴走者となる



保護者と教職員がチームで生徒の伴走者となる

<生徒の視点>

個別最適化の実現

生徒ひとり一人に目が向けられる学校

多様性を認める

安心・安全に過ごせる学校

進路保障

個人の希望にあった多種多様な進路が実現できる学校

生徒の夢を一つでも多く叶えることこそが満足度の向上

保護者と教職員がチームで生徒の伴走者となる

＜保護者の視点＞

情報共有（学校・学年・クラス・部活）

情報提供や報告・連絡・相談や節目の便り（BLEND）

部活顧問とのコミュニケーションと目標共有

保護者の負担も大きいことから、部活の目標・指導方針・練習計画等を丁寧に説明し、理解と協力を求めることが必要不可欠である。（BLEND）

生徒を預けることへの安心感こそが満足度の向上

保護者と教職員がチームで生徒の伴走者となる

<教師の視点>

情報共有（学校・学年・クラス・部活・生徒支援）

* 生徒支援：進路・資格・保健室・教育相談・Mirale・事務室

教師間の情報提供・共有・連携の強化：チーム担任制

DXによる業務の効率化

授業や評価でICTの活用（CBT導入やデジタル採点）

働き方改革

仕事の効率化と平準化

チームで生徒の個別最適化を実現する

地域に評価される学校になる

学びで得た知識や技術が社会に貢献している。
各種全国大会や県大会での部活・クラス・個人の実績。

→生徒の自己肯定感も高くなっている。

「高校で何を学んだか・経験したか」が問われており、本校の「学歴・経験」が進路実現に大きな結果として現れている。

地域貢献を積極的に行い、公共団体・企業との連携を深めていきたい。特に地元谷山 や鹿児島市での地域貢献を柱とする。

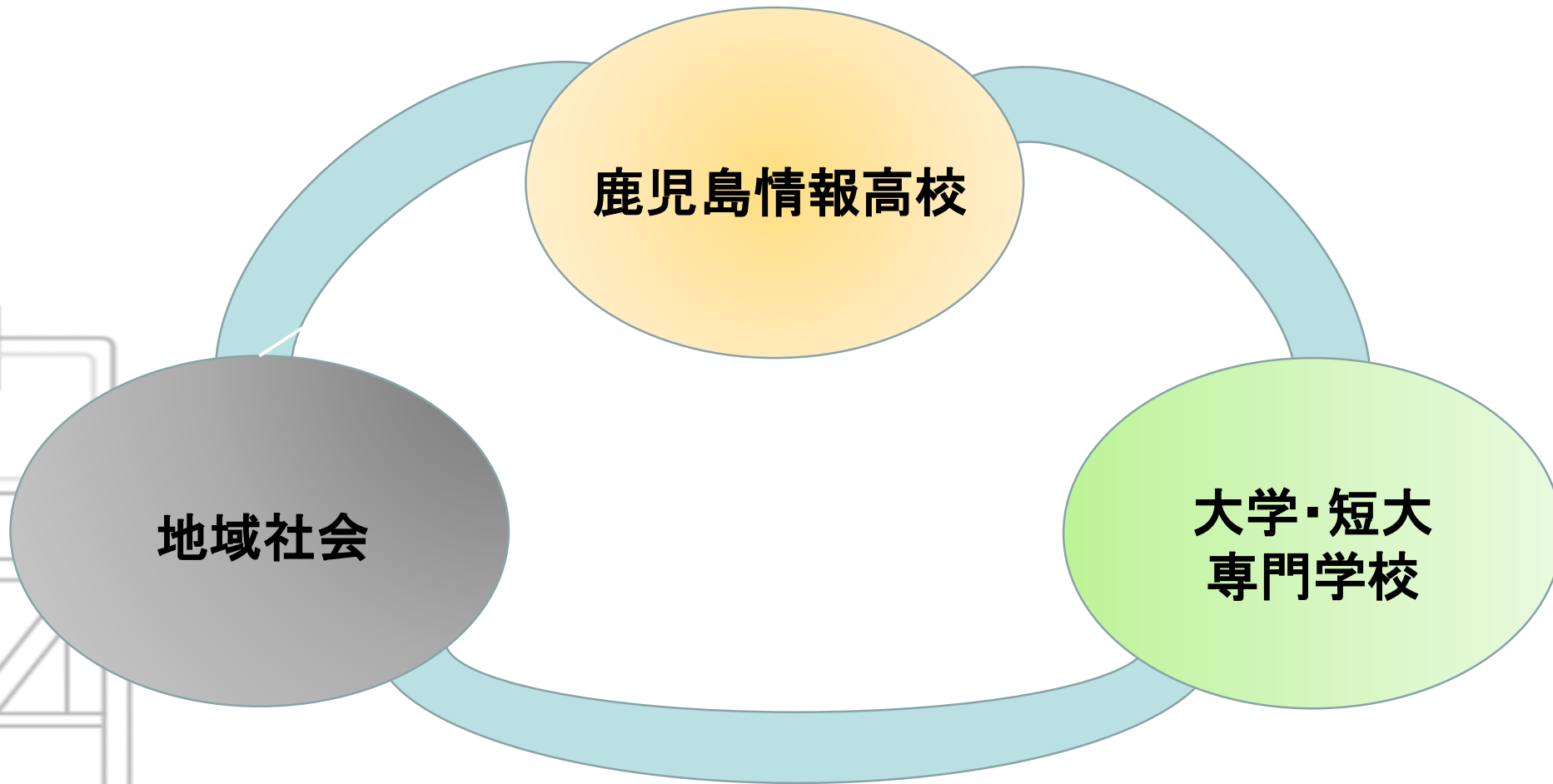
地域に評価される学校になる

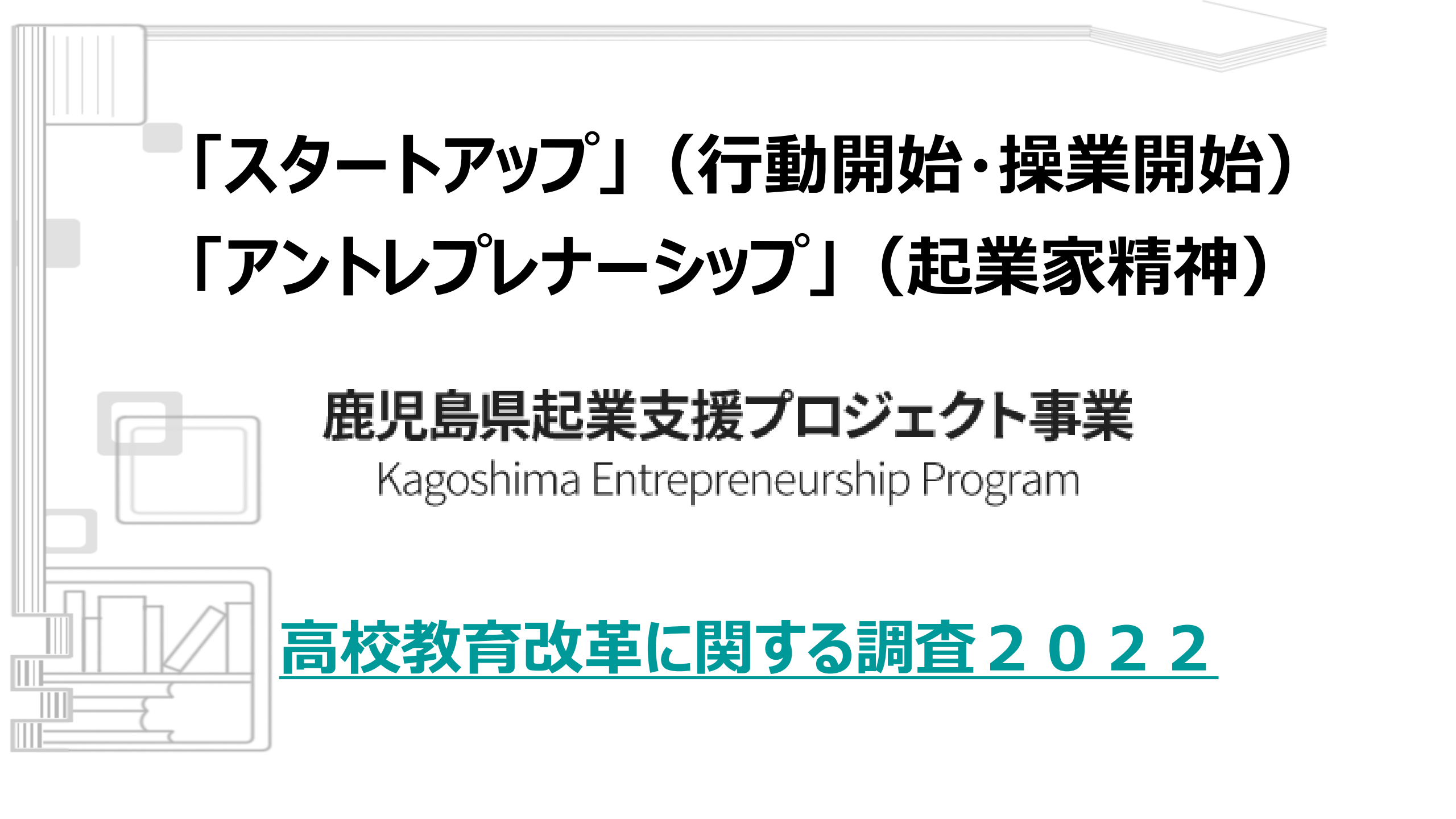
鹿児島県の課題は若者の県外流出ある。本校の学びを通して、生徒が将来的に鹿児島に貢献することが重要であり、卒業生が鹿児島の担い手になることが大切である。

地元企業が求める人財を育成することが、本校の大きな役割である。このためには、教職員が「地域を知る」・「企業を知る」・「未来を考える」等の知識と技術が必要になる。

生徒・教職員が社会と繋がるが大切である

社会と繋がる





「スタートアップ」(行動開始・操業開始) 「アントレプレナーシップ」(起業家精神)

鹿児島県起業支援プロジェクト事業

Kagoshima Entrepreneurship Program

高校教育改革に関する調査 2022

「気づき・考え・実行する」 学校づくり

＜生徒の視点＞

主体的な学び（なぜ学ぶ・何を学ぶ）

探究活動（PBL）・ICTの活用

集団生活で必要なこと

インクルーシブ教育・身だしなみ 3 原則

PDCAサイクルの実践

計画・実行・確認・改善サイクルの重要性

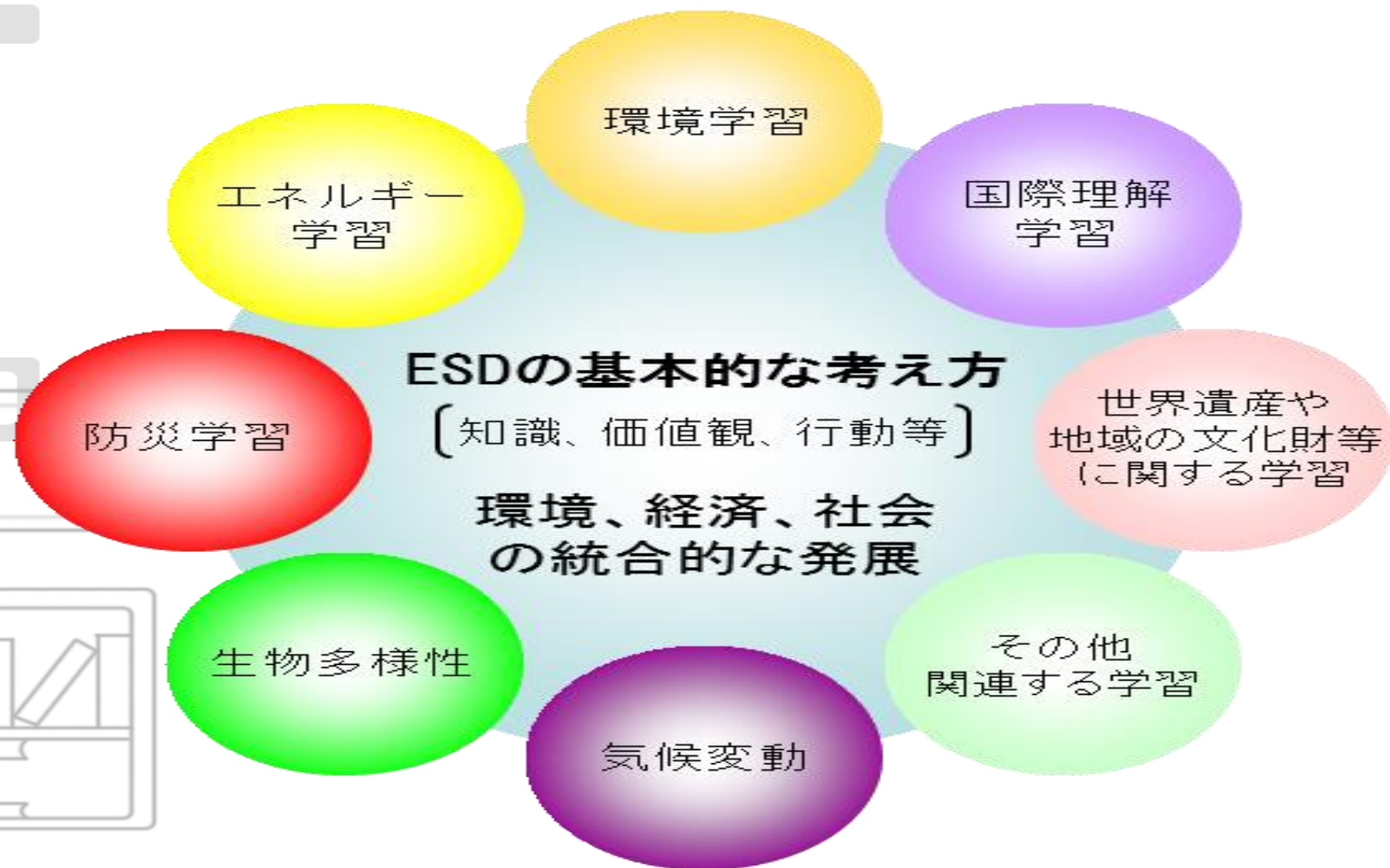
情報GP



SDGs「持続可能な開発目標」



ESD「持続可能な開発のための教育」



「気づき・考え・実行する」 学校づくり

＜教師の視点＞

生徒が主体的に学ぶことができる環境を創るか

探究活動（PBL）・ICTをどう使うか

学校生活で必要とされていること

インクルーシブ教育・身だしなみをどう伝えるか

人生設計で大切なこと

PDCAサイクルをどう実行させるか

STREAM教育の実践

S : Science (科学)

T : Technology (技術)

R : Robotics (ロボット技術)

E : Engineering (工学)

A : Art (芸術)

M : Mathematics (数学)

「気づき・考え・実行する」 学校づくり

＜教師の役割＞

コーチング・トーチング

主体的な学びの方法を導く・生徒の心に灯をつける

伴走者・支援者

主体的な学び・協動的な学びをサポートする

社会と繋ぎ未来につなげる

個別最適な進路実現

「気づき・考え・実行する」 学校づくり

＜教師の義務＞

インプット・アウトプット

主体的な研修・イベント参加や視察の実施と変化

現状打破

授業改善や組織改編の実施

安心・安全な環境創り

気配り・目配り・心配り

学科選択の学校

学科主導の学科方針に沿ったカリキュラム編成
生徒が授業を選択できる「JOHO未来タイム」

事業や予算計画の主体は学科

入試判定の責任は学科

スクールポリシー(学科単位)

グラデュエーション・ポリシー(育てる生徒像)

学校教育活動を通じて、どのような資質・能力を育むことを目指すのか。

カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施に関する方針)

「育てる生徒像」の実現のために求められる教育課程をどのように編成・実施するのか。

アドミッション・ポリシー(求める生徒像)

各学校で行われる教育活動に基づき、どのような生徒を受け入れるのか。

重点課題

- 主体的な学び
- 個別最適化
- 授業の質の向上

鹿児島情報高等学校のあるべき姿

—学園方針—

学校(学業・部活)で、自らの夢を**創**ってほしい

この主語は**生徒**と**先生**です。

生徒・先生が「学び」ながら「創る」学校

生徒・先生・学校の「現状打破」「否定の精神」「正しさの追求」

最後まで目を通していただきありがとうございました